

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900054	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月2日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原		
所在地	(〒239-0835) 神奈川県横須賀市1-4-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年10月29日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・その方の生活スタイルに合わせ、私たち職員は日々ご利用者様に寄り添い共に過ごしています。 ・入浴日はご本人様の希望の日時に合わせ浴湯もその都度、入れ替えをし清潔保持していきます。 ・体調管理について医療関係者と連携を取り日々体調管理に気をつけています。 ・まわりの環境にも恵まれており、建物のすぐ横には果樹園があり毎年その実ができるとオーナー様より声をかけて頂き、ご利用者様と果樹狩をしています。裏には桜の大木が春になると見事な大輪を咲かせてくれるので、お天気の日には散歩やお花見を楽しまれています。 ・今年の5月セラピー犬が来ました。ご利用者様もとても喜び共に過ごしています。 ・地域のお囃子会の方に協力して頂きニチイまつりを開催することができました。又、毎週2回地域のラジオ体操にご利用者様も参加させて頂き交流が持つことができました。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年11月30日	評価機関 評価決定日	平成28年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、京急線北久里浜駅からバスで5分、徒歩3分ほどの住宅街の一角にある。法人は研修・教育事業や各種介護施設など全国規模で展開している。建物は1階がデイサービスで、2階、3階がグループホームになっている。近隣にはレストラン、ドラッグストアやスーパーなどがあり買い物も楽しめる。建物北側山裾に広がる果樹園は土地所有者が管理していて、利用者はくだもの狩りを楽しむこともある。</p> <p>【地域との連携】 開所以来13年、法人が変わっても地域との交流に努めてきた。町内の祭りの際は休憩所として駐車場を提供し、利用者は御輿やおはやしを楽しんでいる。小中学校との交流はもちろん、近隣の祭礼に合わせて行う「ニチイ祭り」には大勢の地域の住民や子供達が立ち寄る。夏から始まった地域のラジオ体操で、顔なじみになった住民から声を掛けてもらうこともあり、利用者は散歩を楽しみにしている。地元のスーパーやレストランなども顔なじみになっている。</p> <p>【医療との連携】 内科、精神科など多数の往診医が来所している。通院が大変になった時、利用者と家族は複数の医療機関から往診医を選んでいく。24時間対応してくれる医師もおり、看護師と連携をとり日々の健康管理に努めている。看取りに関しても医療機関と家族が十分な話し合い、本人の望む旅立ちを応援できる体制を整えている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで作り上げた理念を朝礼時に唱和し、さらに各ユニットの出入りに提示することで共有し意識付けに努めている。	開設時に作った理念は、法人の社是、経営理念と共に、毎朝申し送り時に唱和し確認をしている。職員は新人研修の時に学んでいる。理念は事務所内、各ユニット玄関に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂いている。ニチイ祭りでは地域の方々が見学に来て下さり交流を深めることができている。日々のご近所同士の挨拶は欠かせずにできている。	町内会に加入し、敬老会やラジオ体操、お祭りなどに参加している。小学校、中学校と毎年交流している。近隣のスーパーやファミリーレストランの店員とは顔なじみになり、あいさつを交わしている。毎週習字のボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設全職員、認知症サポーター養成講座を受講。施設見学者や地域の方から介護相談を受け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しその都度状況報告をしている。会議での意見や要望があれば、その後の業務に取り入れることもしている。	奇数月の第3木曜に開催、民生委員、町内副会長が参加している。横須賀市職員が年に1回参加する。今年度は敬老会、消防訓練、認知症サポーター養成講座などの行事に合わせ開催した。	参加は行政が年に1回、利用者家族は行事のみの参加となっています。地域包括支援センター職員や行政の方々を含め、家族など多くの方々の参加を求めることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市高齢福祉課、生活福祉課、地域包括支援センターへ判断に迷う事や分からないことは助言を頂きながら進めている。	運営推進会議の議事録を窓口を持参するほか、更新時の代行申請も行う。生活保護受給者がいるため、ケースワーカーの来所もある。今年度は市営住宅に戻る独居高齢者の支援で行政各部門との交渉にあたった。保健所や市の研修には職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施して、身体拘束について勉強会をしている。マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	法人が作成したマニュアルで毎年研修を行っている。市の虐待防止の研修にも参加している。デイサービスと兼用の玄関は施錠しているが、ユニット間の玄関エレベーターは自由に行き来できる。外出したがる利用者があるときには、見守り同行をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施し職員全員に周知徹底している。 横須賀市の高齢者虐待研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で身体拘束等の勉強会の中で関連付け話し合いを得るようにしている。 資料を誰でも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度確認をしながら納得が頂いた上で進めるように常に心がけている。また、改定時は家族会を設け説明しご理解、納得の上進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人でお客様アンケートを年1回実施している。また、各ユニット玄関にご意見ご要望箱を置き積極的に取り入れている。	「佐原新聞」を毎月発行して、利用者の様子を伝えている。法人が行うアンケート調査では、豊の希望や看取りの取り組みについて意見が出ていた。家族会は年2回行われ、今回は料金の改定について説明した。	いろいろな機会をとらえ、ご家族と共に運営しているという意識を持ってもらえるような工夫を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員の意見を発表できる場を設けている。必要があれば改善をしていくようにしている。	月1回のミーティングや全体会議の折に意見を聞いている。日常の小さなことは直接管理者に提案することが多い。利用者家族に発行する「佐原新聞」を「手書きの方が温かみが伝わる」という職員の意見で手書きに変更した。細かな意見は各ユニットの「連絡ノート」に書き込むこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施、就業環境、条件の確認をしながら設備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内の提示し、希望者にはシフト調整をしながら参加している。また上長の判断でその人に必要だと思われる研修についてはその都度、声かけをかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加を積極的に進め、情報交換を行いながら、より良いサービスを追及していける環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、ゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明をし、それでも不安があればどんな些細なことであっても丁寧に答える姿勢をみせて不安を解消するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話を伺いながら、センター方式を使ってアセスメントをして支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「認知症高齢者への10の項目」をいつも意識するようになっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たち職員の役割は、本人と家族の橋渡しであることを認識してもらおうよう日々伝える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟や知人が面会に来てもらいリビングやお部屋で気兼ねなく過ごす事ができるように支援している。	知人や親族が面会に来ることが多く、居室やリビングで湯茶のもてなしを行っている。スーパーでの買い物やレストランで食事を定期的に行っている。近隣の駐車場では週に2回ラジオ体操を行うようになって、散歩の時などご近所さんから声をかけられることが多くなった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の体調を考慮して仲間同士の時間やお茶の時間を職員が入って設けることで孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了も電話相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンター方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているかを掘り下げていくようにしている。	入所前は、詳細な生活歴など自宅でアセスメントをとっている。半年ごとにセンター方式でアセスメントを見直している。利用者の意向は、散歩や入浴時のリラックスした時に聞くことを普段から心掛けている。意向を伝えにくい利用者は、表情や行動からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族様や以前関わっていたケアマネジャーからも聞き取りをして把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用するとともに各ユニットミーティングで話し合いを行い現状の把握を共有に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様への聞き取りを行うとともに医師から意見を参照し職員とカンファレンスを行い介護計画書を作成している。	アセスメントの結果、課題を見つけカンファレンスで意見を集約し介護計画書を作成している。主治医の医療情報や家族の意見も汲み取っている。6か月ごとにモニタリング、評価を行い更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌へ落とし込み、ユニットミーティングで共有し、介護計画に反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や訪問看護師のアドバイスを受け健康管理に努めている。また訪問マッサージの利用などもニーズに応じて取り入れている。またデイサービスと合同でボランティアの受け入れをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーで欲しい物を買に行き地域の方々と触合う機会を持てるように支援している。また、土地のオーナーの敷地内にある果樹の収穫作業のお手伝いをさせてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間、祝日祭日にも対応して頂き、ご本人ご家族の安心につながっている。	全員が協力医を主治医にしている。内科や精神科も複数の医療機関から家族が選択できるよう案内している。眼科皮膚科などの専門医は家族対応が主であるが、家族が対応できない時は職員が付き添うこともある。受診結果は記録して、家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にその都度、相談し情報交換に努めている。また、かかりつけ医看護師に常にアドバイスを頂き不安や悪化の防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向けて病院関係者と連携を蜜に取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、その結果をその都度ご家族様へ報告、今後の見通しなど話し合い方針の見直し、情報の共有を図る。	入所前に「重度化における対応に係る指針」で説明している。重度化した場合は医師と家族と話し合いを行い、医師は「お別れのために」という冊子を家族に渡し、医師と家族と職員が協力して支援を行う体制を作る。家族が居室で泊まり込みをしながら看取った例もある。看取りの経験は豊富であり、職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命受講を順次している。 避難訓練の時に消防隊員の方から応急手当など実践訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回実施している。また民生員やご家族へ訓練の参加を依頼しアドバイスを受け、今後に生かせるようにしている。	年に2回9月と11月に行った。9月は火災の自主訓練を行い、11月は消防署と民生委員と共に夜間想定で訓練を行った。災害備蓄は3日分の食料と水、ラジオカセットがあり、リストで管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の勉強会を行うとともに、フロアミーティングで確認している。	法人の研修が毎年あり、今年度職員は2度の法人試験を受け全員が習得するまで学習を行った。個人情報の入った書類は、事務所の鍵の掛かる書庫に入れ、退出時は必ず鍵をかけている。利用者には尊敬の念を忘れず、呼び名を含め言葉遣いに気を付けるよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声かけを行いその結果を記録に残すことで共有を図り、対応の仕方を工夫し続けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントなどご本人の生活歴やリズムを把握し、尊重する体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望の美容院へ外出支援をしている。またご本人の化粧品なども買い物支援し、おしゃれも継続ができるよう努める。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に下ごしらえや配膳、下膳、食器洗いをやっている。誕生日や祝日には、バースデーケーキや寿司、天井、お節料理、うなぎなど、行事にあった食事を楽しむ機会がある。	食材業者から毎日配達があり、メニューと作り方が届く。「できることを支援する」という事業所の考えの下、利用者は調理や配膳、テーブル拭きなどを手伝っている。職員と共に会話を楽しみながら食事をとっている。イベント時は独自でメニューを作る。年に2回、近くのファミリーレストランで外食する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は少しずつ回数を増やして摂取していただけるよう時間をずらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけと見守りをしている。提携歯科医に定期的に検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を見て排泄パターンを把握しそれに合わせたトイレ誘導や声かけをして支援している。	トイレは各フロア3か所あり、うち一つは脱衣所の中にある。排泄に失敗した時はさりげなくトイレに誘導し、そのままシャワー浴につなげている。チェック表で排泄パターンを把握、事前に誘導し失敗をなくすよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを食事の中に取り入れるようにしている。散歩などで身体を動かす支援を行っている。必要があれば、かかりつけ医と相談して必要な場合は薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のタイミングや体調に合わせて入浴できるよう支援している。シャワー浴や足浴にも対応している。 季節によって菖蒲湯、ゆず湯を行っている。	一人ずつお湯を張り替えて入浴している。その人に合わせたシャンプーや石鹸を使用している。入浴を好まない利用者には、職員を変えたり時間をおいて声掛けするなど工夫している。重度の方は2人介助を行う。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、無理強いはしない。また、日々の体調変化を見逃さずに、さりげなく休憩を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作り、職員がいつも閲覧できるようにしている。また、変化があった時には申し送り、介護日誌を活用し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を元にそれぞれができることのサポートをしている。また集団レクの対応などで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、車椅子のご利用者様も散歩にでかけている。朝のゴミ出しや買い物へ職員と行くことがある。週2回地域のラジオ体操も積極的に参加している。	天気の良い日は、車いすの利用者とともに散歩に出かけている。近所のドラッグストアへ買い物に行くこともある。ベランダでの外気浴や事業所周辺の掃除も利用者と共にやる。夏から始まった地域のラジオ体操に週に2回職員と共に参加している。介護タクシーを利用し久里浜花の国のレストランに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際は、ご入居者様に必要物品の聞き取りを行い、外出時など必要なものを選んで頂く。また、レジで店員とお金のやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはいつも行っている。 年賀状を書く支援も毎年行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、リビングの飾りを考え創る。窓から桜の木、果樹園が見え四季の移り変わり目が楽しめる。	幹線道路から入った山裾に広がる果樹園や四季の花々が居間からも良く見える。南向きの居間の大きな窓から日差しが入り明るい。玄関にはメダカを飼い、クリスマスの飾りなどで季節感を出している。床は清掃業者が手入れをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分やプライベート部分があり個々に好きな様に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時には自由である事を伝え、個々に馴染みの物等を持参して頂いている。	エアコンと照明器具以外は、すべて利用者が馴染みのものを持参している。ベッドは使い慣れた物か好みの中古ベッドを購入している。整理ダンスやテレビ、机やいす、仏壇など思い思いの品を持ち込み、写真や時計、手作りの作品などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計と手すりの設置が充実している。また、トイレや浴室は表札を設けて分かりやすくしている。		

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼時、唱和することで共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ニチイまつり等、地域の行事で交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設全職員、認知症サポーター養成講座を受講。施設見学者や地域の方から介護相談を受け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しその都度状況報告をしている。会議での意見や要望があれば、その後の業務に取り入れることもしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市高齢福祉課、生活福祉課、地域包括支援センターへ判断に迷う事や分からないことは助言を頂きながら進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施して、身体拘束について勉強会をしている。マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施して、職員全員に周知徹底している。 横須賀市の高齢者虐待研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で身体拘束等の勉強会の中で関連付け話し合いを得るようにしている。 資料を誰でも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度確認をしながら納得が頂いた上で進めるように常に心がけている。また、改定時は家族会を設け説明しご理解、納得の上進めてきている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人でお客様アンケートを年1回実施している。また、各ユニット玄関にご意見ご要望箱を置き積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員の意見を発表できる場を設けている。必要があれば改善をしていくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施、就業環境、条件の確認をしながら設備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内の提示し、希望者にはシフト調整をしながら参加している。また上長の判断でその人に必要だと思われる研修についてはその都度、声かけをかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加し、情報交換しより良いサービスを追求している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明をし、それでも不安があればどんな些細なことであっても丁寧に答える姿勢をみせて不安を解消するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話を伺いながら、センター方式を使ってアセスメントをして支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「認知症高齢者への10の項目」をいつも意識するようにもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の橋渡しであることを認識してもらうよう日々伝える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来所しやすい環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間同士の時間やお茶の時間を職員が入って設けるよう意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話相談等、受け付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の観察し、センター方式を活用し、希望を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や以前関わっていた方にも聞き取りをして把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用するとともにミーティングで話し合いを行い現状の把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様への聞き取りを行うとともに医師から意見を参照しカンファレンスを行い、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌へ落とし込み、ユニットミーティングで共有し、介護計画に反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や訪問看護師のアドバイスを受け健康管理に努めている。また、訪問マッサージ等、ご入居者のニーズに応じるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーで欲しい物を買に行き地域との交流を図っている。また、土地オーナーに果樹の収穫を手伝わせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間も対応して頂き、ご本人ご家族の安心につながっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に相談をし、情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、必要な相談と病院のソーシャルワーカーと密に取るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、その結果をその都度ご家族様へ報告、今後の見通しなど話し合い方針の見直し、情報の共有を図る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命受講を順次している。 避難訓練の時に消防隊員の方から応急手当など実践訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施し、民生委員等からアドバイスを頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の勉強会を行うとともに、フロアミーティングで確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声かけを行いその結果を記録し対応の仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	アセスメントなどご本人の生活歴やリズムを把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望の美容院へ外出支援をしている。またご本人の化粧品なども買い物支援し、おしゃれも継続ができるよう努める。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際、一緒に盛り付けや役割を分担することができ楽しみへ繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	思うように摂取できない時は、時間をずらし、回数を工夫する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと見守りをしている。歯科医に定期的に検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しそれに合わせ声かけ、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを食事の中に取り入れるようにし散歩等身体を動かす支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、入浴担当を決め、その日の体調に合せ行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見てさりげなく休憩を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成、いつでも閲覧できるようにしている。変化があった際は記録に残し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を元にサポートをしている。レク等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、声かけし散歩へ行く等している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際、必要な物を選んで頂く。また、レジで支払いをして頂くことも見守りで行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはいつも行っている。年賀状を書く支援も毎年行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔にし季節感、生活感を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分やプライベート部分があり個々に好きな様に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由であると、伝えているので個々に馴染みの物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計と手すりの設置が充実している。また、トイレや浴室は表札を設けて分かりやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター横須賀佐原

作成日 平成28年 2 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に行政地域包括、職員、家族など多くの方々の参加を求める。	開催月には行政、包括、家族など開催月に参加して頂く。	1年に一回計画書を作成しているので、早めの参加依頼をする。	平成29年3月31日まで
2	10	いろいろな機会をとらえ、家族と共に運営する。	家族会とご入居者が意見を言える場を増やす。	1年に一度家族会、個別に意見を聞いているが意見を言える場を増やす。	平成29年3月31日まで
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。